

様式13

会派視察研修計画書

令和 4年10月28日

碧南市議会議長 様

会派名 市民クラブ
代表者名 石川 輝彦

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	石川 輝彦 ・ 神谷 悟 ・ 杉浦 文俊	
日 時	令和4年10月31日（月）～令和4年11月2日（水）	
視 察 先	愛媛県今治市、愛媛県宇和島市、愛媛県立こども医療センター	
研 修 内 容	今治市 「フェイズフリーなごみ処理施設」について 宇和島市「防災減災対策」について 愛媛県立こども医療センター「医療的ケア児支援」について	
日 程	（視察先到着時間・宿泊先名及び電話も記入） 別紙資料参考（行程表）	
交 通 手 段	公共交通機関利用 乗降車駅名（ 碧南中央駅 ）	自家用車利用____台 所有者名（ ）

（議会事務局記入）

旅 費 の 額	(内 訳)
円	

会派視察研修報告書

令和 4年11月24日

碧南市議会議長 様

会派名 市民クラブ
代表者名 石川輝彦

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 3人 分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	石川 輝彦 ・ 杉浦 文俊 ・ 神谷 悟
日 時	令和 4年 10月31日（月）～11月 2日（水）
視 察 先	愛媛県今治市 ・ 愛媛県宇和島市 ・ 愛媛県東温市
研 修 内 容	今治市 フェイズフリーなごみ処理施設について 宇和島市 防災減災対策について 東温市 医療的ケア児支援について
視察先面会者 又は講師名等	今治市 市民環境部 環境施設課 品川二郎課長 資源リサイクル課 村上浩一課長 宇和島市 議会事務局 水野宏一事務局長 総務企画部 危機管理課 山下真嗣課長 東温市 愛媛県保健福祉部 大西浩二係長 子ども療育センター事務局 高石裕二次長 他5名
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>《今治市》</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>《宇和島市》</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>《東温市》</p> </div> </div>	

※ 相手方から収受した資料の写しを添付してください。

視察研修成果報告書

令和 4年11月24日

議員氏名

石川 輝彦

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和 4年10月31日（月）～令和 4年11月 2日（水）
- 2 視察先 愛媛県今治市・愛媛県宇和島市・愛媛県東温市（愛媛県保健福祉部）
- 3 視察の種類 会派視察（市民クラブ・公明党・みらいクラブ合同視察）
- 4 視察の成果等

【今治市・・・フェイズフリーなごみ処理施設について】

- ・日常、非日常ともに利用が可能なフェイズフリーを求め建設されたごみ処理施設「バリクリーン」の事例を勉強するため、今治市のクリーンセンターの視察を行った。
 - ・今治市は平成17年の市町村合併により、合併前は今治・大島・伯方、大三島のそれぞれに設置されていた4つのごみ処理施設を集約し、今治市で唯一のごみ処理施設として建設された施設である。
 - ・当初計画では、吸収合併した町の施設跡地に建設を予定したが、住民の反対により建設の再考を行ったとのことである。その再考を行う機関として「今治市ごみ処理施設整備検討審議会」を設置し検討した結果、東日本大震災の教訓を踏まえ、防災拠点機能を付加することを決定し、旧今治市の旧施設に隣接する関係住民を説得し、現在の場所に建設をしたとのことである。
 - ・このごみ処理施設は、21世紀のごみ処理施設のモデル（今治モデル）として位置づけられ、基本コンセプトを「安全・安心で人と地域と世代をつなぐ いまバリクリーンセンター」とし、①廃棄物を安全かつ安定的に処理する施設、②地域を守り市民に親しまれる施設、③環境啓発・体験型学習及び情報発信ができる施設の3つの柱により構築されており、いつもは軽スポーツができる施設、もしもの時は避難所になる施設であるため、地域住民からは安心だとの声をいただき、年間約2万人の方に利用される施設である。
- ◇現在、碧南市・高浜市で構成される衣浦衛生組合のクリーンセンターは、安城市とのごみ処理施設の合併問題も先に延ばされ、協議もされていないのが現状である。近い未来、ごみ処理場の合併に向けた協議は避けられないと考える。今後、協議を行う時には、このフェイズフリーを念頭に入れ、前向きな協議が必要であると考えている。



【宇和島市・・・防災減災対策について】

- ・防災減災対策を進めるための自主防災に対する取り組みの先進地である宇和島市の諸活動を学び、碧南市の防災減災対策の前進につなげるため、行政視察を行った。
 - ・宇和島市では503の自治会があり、その中で自主防災会を組織している自治会は444組織、結成率94.8%。平成28年3月13日に自主防災組織連絡協議会を設置されており、役員年数はその自主防災会でバラバラであるとのことである。
 - ・自主防災会での活動では、防災訓練として「地震津波避難訓練」や「避難所HUG訓練」の他、初期消火訓練、地震体験、救命救急講習、炊き出し訓練、ドローン操作訓練等を行っている。
 - ・活動を行っていくための補助金の制度は、防災訓練・防災活動・防災研修を対象にした「自主防災組織等防火活動補助金（補助率1/2）」や自主防災組織結成時に防災資機材を購入するための「自主防災組織結成支援事業補助金（補助率2/3）」、地区防災計画作成時に必要な事業や訓練、防災資機材購入のための「自主防災組織活性化支援事業補助金（補助率10/10）」、他にも、「津波緊急避難路当整備補助金（補助率2/3または1/2）」、「防災共用型放送設備整備事業補助金（補助率2/3）」、「避難施設感染防災対策支援補助金（補助率2/3）」などがあり、その自主防災組織が自主的に考え、必要なものを整備するための補助制度を整備しているとのことである。
 - ・今回の視察の目的の一つでもある「地震連動自動開錠かぎ保管庫」は、平成25年度より夜間や休日等に避難所の開設が必要になった際に備えて、震度5以上の地震の揺れで開錠する鍵保管庫を設置しており、この保管庫の中に入っているものは、施設入り口の鍵の他、手動式懐中電灯やパール、軍手が整備されている。現在整備されている避難所は21施設（保管庫は15庫）とのことであり、今後も整備を進めていくとのことである。
 - ・宇和島市では、災害情報の伝達の手段の一つとして「防災ラジオ」を全戸配布されており、コミュニティFMを活用した手法をとられている。宇和島市の面積も広大なことから、受診できない地域もあり、そのような地域への対応は、個々の防災ラジオのアンテナの設置（無料配布）やケーブルテレビ・やテレビ共聴等に接続したり、FM受信アンテナを市が設置したりして、受診状況の改善を図ったとのことである。
 - ・防災倉庫は必ず避難所付近に設置されており、避難所の数＝防災倉庫の数であるとのことである。これが出来ないと、いざという時に暴動が起こる可能性があるとのことであった。
 - ・今後は「自分の命は自分で守る、地域で助け合う」という市民の防災意識の更なる向上に取り組むとともに、事前復興計画を策定していくとのことである。
 - ・また、宇和島市では公共施設に設置されているAEDは、いざ必要となった時のために、外の壁に設置されており、いつでもだれでも使用が可能な状態となっている。このAEDには、監視するためのGPS機能があり、利用された場合には、メールが担当所管に届くようになっている。
 - ・今後は、AEDの講習の充実に向けて取り組んでいくとのことである。
- ◇それぞれの自主防災組織が協議し、必要な時に必要な補助金が出る制度設計には非常に興味が湧くところであり、これが自主防災を前進させる鍵となると考える。また、碧南市のFMBの取り組みで課題となっている鍵の保管においては、宇和島市の自動開錠のボックスの配備を必要であると考え。更に防災倉庫の設置の考え方も習い、避難所と防災倉庫を合わせる必要があると考える。



【東温市（愛媛県保健福祉部）・・・医療的ケア児等の支援について】

- ・医学の進歩により日常生活や社会生活を送る上で、常時、医療的ケアを受けることが必要な児童が多くなり、国の施策（医療的ケア児支援法）として各都道府県に支援センターの設置が求められている。愛知県では東海市に計画されているが、既に設置されている愛媛県の支援センターの視察を行い、今後の碧南市の対応を検討するため、行政視察を行った。



- ・愛媛県では、NICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養等の医療的ケアが日常的な児童は、約200人程度いると推計されている。その状況下の中、令和3年3月に「第6期愛媛県障がい福祉計画」及び「第2期愛媛県障がい児福祉計画」が制定され、令和5年度末までに、県・市町又は圏域において、関係機関等が連携を図るための協議の場を設けるとともに、医療的ケア児に関するコーディネーターを配置することを目標とされ、取り組まれた。
- ・愛媛県医療的ケア児支援センターは、医療的ケア児の支援について、地域をバックアップすることを目的に設置され、令和4年7月より支援センターを開所されている。この支援センターでは、人工呼吸器やたんの吸引等の医療的ケアが必要な児童、その保護者、関係機関等からの相談を受けられており、これまでにホームページの問い合わせ1件、電話6件の計7件の相談を受けている。
- ・支援の内容としては、相談支援・情報提供では、①医療的ケア児や保護者、関係機関等への助言を行う。②医療的ケア児の支援に関する社会資源（医療・福祉サービス等）の情報を提供する。③適切な関係機関（医療・保健・福祉、教育、労働等）を紹介する。の3本柱である。関係機関との連絡・調整では、事例等の情報共有や困難事例への助言を行うこととされている。
- ・当センターの設置場所は、愛媛県子ども療育センター内に設置されており、特別支援学校と隣接され、そのまま行き来できるように設計されている。センターに入院されている児童は、毎日学校に通うことが出来ており、非常に良いロケーションであると言える。
- ・今後は、市町の相談窓口との連携協に向けて取り組んでいかれるとのことであった。

- ◇碧南市内でも、医療的ケア児は存在し、それぞれの子で発症の仕方も違えば、ケアの仕方も違っている。今後、愛知県内に設置される支援センターの計画段階から碧南市として連携を強化し、よりよい支援センターが設置されることを強く望むものである。



会派視察研修報告書

令和 4年 11月 24日

議員氏名 杉浦文俊

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和 4年 10月 31日（月）～令和 4年 11月 2日（水）
- 2 視察先 愛媛県今治市、宇和島市、東温市（県立子ども療育センター）
- 3 視察の種類 市民クラブ会派視察
- 4 視察の成果等

《フェイズフリーなごみ処理施設について》・愛媛県今治市

- ・今治市のゴミ処理施設場バリククリーンは、災害時の防災拠点となるような施設として平成30年に竣工し、市民16万人分のゴミの安定的な処理に加え、「平時は市民の憩いの場」、災害時は「防災拠点」としてフェイズフリーなごみ処理施設として地域に貢献している。
- ・フェイズフリーとは、普段の生活の中、身のまわりにあるモノやサービスを、日常時はもちろん、非常時（災害時）にも役立てることができるという考え方を指し、現在行政や民間での取り組みが広がりつつある。
- ・バリククリーンの可燃ごみ処理施設としての役割は、16万人分の市民の生活ごみの処理を行うと共に、焼却の熱エネルギーを利用して発電（3,800kw）を行い施設全体の消費電力を賄うと共に隣接する公共施設へ供給し、余った電力は売電している。また、管理棟に大研修室を整備し、軽スポーツができる場として年間2万人の市民が活用している。災害時には、耐震・免震対策を実施しているため、停電時においてもごみ発電により安定して電気を賄うことができ、管理棟の大研修室では約320人の避難所として活用している。
- ・フェイズフリーとは、平常時のことが非常時にも役に立つことを指すのであれば、行政だけではなく、市民も常に心掛けている事ではあるが、言葉にする事によって、更なる意識づけになると感じる。碧南市においては、ごみ処理場の建て替えの際は、現状余剰熱を利用するにとどまっているが、発電所としての役割を兼ねる事で、脱酸素社会実現に向けた役割も担えるので、その際は検討していきたい。

《防災減災対策について》・愛媛県宇和島市

- ・宇和島市の防災減災対策として、地域防災の柱でもある自主防災会の結成率が94.8%と碧南市の約70%と比べ加入率が非常に高く、理由については町内会と加入に合わせ自主防災会の同時に加給しているため、町内会加入が大きな要因である。町内会加入

については担当課が異なる為、詳しいノウハウは聞けなかったが、碧南市では外国人世帯も多く加入率の推移はこれによるものが大きいと話している。宇和島市では、自主防災会の結成時の補助金を用意し、また防災士を積極的に育てており、かかる費用も全額補助している事も、自主防災会の市民意識向上に関与していると言える。

- ・また、宇和島市では大規模災害が発生した際、指定避難所や津波避難ビルに地震連動自動開錠かぎ保管庫を設置し、夜間休日時で空いていない場合や、職員がいけない場合においても避難できるように対応している。軽度な揺れで開錠しない様に震度5以上で設定をし、保管庫の中は、施設の鍵、懐中電灯、パール（破壊器具）、軍手を保管している。費用については、1ヶ所あたり20万円ほどで、令和3年度までに公共施設21施設に設置を済ませている。
- ・AEDは令和3年度までに21施設に野外設置をし、市民が緊急時に施設閉館時にも利用できる。野外という事もあり、夏や冬に適切に作動することや本体の劣化状況について心配されるが、対応した箱（8万円）を設置する事で、問題解決になるという。また、盗難の心配については、GPSをつけ、連絡や場所の把握が出来る様になっている。
- ・碧南市においても自主防災会の活躍は望まれるものであるため、積極的な支援を行い、有事の際は、自助共助を進んで行ってもらえるようにしなければならない。地震連動自動開錠かぎ保管庫に関しては、市内指定避難所も休日夜間とも同様なことは想定されるため、設置に向けて働きがきたい。AEDに関しても、盗難や保存状況を考えると、室内設置が望まれるが、いざという時に利用できない状況であれば意味がないので、野外設置も検討していきたい。

《医療的ケア児センターについて》・愛媛県医療的ケア児センター（東温市）

・医療的ケア児とは、NICU（新生児集中治療管理室）に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童の事を指し、全国的に約2万人が推計される。

・平成28年6月に施行された児童福祉法56条6第2項により、医療的ケア児の保険、医療、福祉、教育の連携強化が推進され、自治体としてもより一層の連携が求められるようになった。愛媛県では、令和3年に「第6期愛媛県障がい福祉計画及び第2期愛媛県障がい児福祉計画」制定し、障がい児支援の提供体制の整備をし、関係機関の協議の場やコーディネーターを設置し、多分野での連携の推進、支援者の養成に努めている。

・令和3年6月公布の「医療的ケア児及びその家族に対する支援」に関する法律では、ケア児が在籍する保育所や学校等への支援や家族の日常生活における支援、相談対応や情報共有の促進といった事が、地方公共団体に求められ、県立医療的ケア児センターでは、その問題解決に向け、令和4年7月20日に開設された。主な業務内容は、情報の集約、家族等の相談対応、他機関との支援連携、人材育成といった事になり、最終的には地域の関係機関等に事案を引き継ぐことが求められる。

・碧南市においても、医療的ケア児は在住するため、支援は必須である。しない関係機関である保険、医療、福祉、教育とがまずは情報共有をしつつ、県と連携も行い、児童及びその家族に対し適切な支援となるよう取り組んでいきたい。

視察研修成果報告書

令和4年 11月24日

議員氏名

神谷 悟

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

1 期間

・令和4年10月31日（月）～11月2日（水）

2 視察先

- ・愛媛県今治市
- ・愛媛県宇和島市
- ・愛媛県東温市（施設は、愛媛県）

3 視察の種類

- ・会派視察研修（市民クラブ）

4 視察の成果等

- ・今治市→今治クリーンセンター「フェイズフリーなゴミ処理施設について」
- ・宇和島市→「防災・減災対策について」
- ・東温市→愛媛県県立子ども療育センター「医療的ケア児支援について」

★目的

○私たち市民クラブは、上記の日程で視察を実施し、今後の本市の取り組み等に横展開できれば良いと考え研修をさせていただきました。

◆テーマ：フェイズフリーなゴミ処理施設について（1日目）今治市

□研修内容

①防災拠点を整備しようとした経緯

・今治市の新しいごみ処理施設整備に対し、東日本大震災の教訓を踏まえ、『新施設の整備に当たってはごみ処理施設自体の地震対策はもちろんのこと、地域全体として災害時の防災拠点となるような機能を有する施設整備に配慮することが望ましい』との答申を受け、防災拠点機能を付加することを決定した。

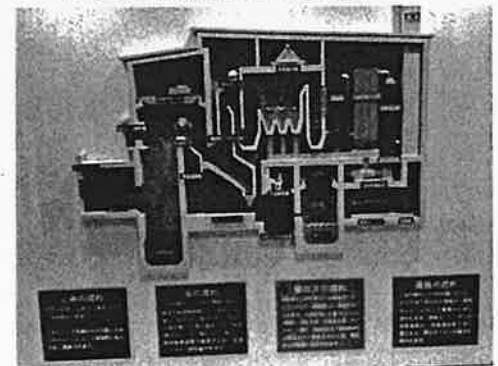
②事業の効果

- ・防災拠点機能として大研修室などを整備しましたが、フェイズフリーの概念を取り入れ、いつもは軽スポーツができる施設として、もしものときは、避難所になる施設という機能を付加したことにより、地元住民から避難所が近くにあるから安心だという声があり。
- ・軽スポーツなどができる施設として年間2万人の方が利用され、喜ばれている。
- ・令和4年9月に一般社団法人フェイズフリー協会主催の「フェーズフリーアワード2022」の事業部門でGOLD賞を受賞

【今治クリーンセンター視察の様子】



【ゴミ処理施設の構造】



③防災拠点としての災害対策概要

- ・320人の市民が避難できる施設
- ・避難者が7日間生活できる備蓄機能
- ・停電時も非常用発電機により、プラントの運転や避難所への電気供給が可能
- ・断水時にも水の供給が可能な地下水揚水設備

【所感】

今治市クリーンセンターを視察させていただき「ハード面・ソフト面での防災の取り組み」や「フェイズフリーの取り組み」をお聞きし、強靱でかつ地域に新たな価値を創出するゴミ処理施設であると感じました。ゴミ処理施設でありながら今治市の指定避難所となっており、停電してもゴミによる発電ができ、大地震などの緊急時は、安全に焼却炉を停止できるシステムでもあり、今後日本全国のゴミ処理施設はこのモデルが主流になると思いました。

【宇和島市視察の様子】

◆テーマ：防災・減災対策について（2日目）宇和島市

□研修内容

○自主防災組織の結成について

①組織形成について

- ・組織数→444組織、結成率→94.8%
- ・平成28年3月自主防災組織協議会設立



・令和2年6月防災士連絡会設立→防災士数：857人

②自主防災会に約95%の加入率となった手法について

- ・地域をまわっての説明会を実施し、結成支援の補助金あり（令和3年度2件→14万円）
- ・自主防災組織連絡協議会、防災士連絡会による結成支援による取り組み等によるもの

○地震連動自動開錠カギ保管庫について

①設置の経緯について

- ・津波避難ビルで夜間に施錠されている施設へ設置
- ・指定避難所への設置は、地震発生時に職員が開錠できない可能性があるため

②設置費用について

- ・契約金額：2,117,500円（税込み）、192,500円/箇所
- ・見積金額：2,202,200円（税込み）、200,200円/箇所

【所感】

宇和島市の防災・減災対策の取り組みを視察させていただき、まず思ったことは、南海トラフ巨大地震等の大規模な災害に備え、きめ細やかに抜けない施策を実施していると感じました。自主防災会の活動に対しては、リーダー的存在の防災士の育成を市が後押しし、活性化につなげていることが理解できました。（防災士資格受講料6万円を市が負担）

地震連動自動開錠保管庫については、1保管庫当たり約20万円と高額であり費用対効果を考えると本市へ導入することは難しく感じました。

【宇和島市議場にて】



【医療的ケア児支援センター

視察の様子】



◆テーマ：医療的ケア児支援について（3日目）東温市

□研修内容

○愛媛県医療的ケア児支援センター支援体制整備について

①支援の内容について

- ・医療的ケア児や保護者、関係機関等への助言を行う
- ・医療的ケア児の支援に関する社会資源（医療・福祉サービス等）の情報を提供する

適切な関係機関（医療、保健、福祉、教育、労働等）を紹介する

②医療的ケア児等の支援に関わる人材の養成について

● 支援者要請研修・コーディネータースキルアップ研修（平成30年度からスタート）

（1）医療的ケア児等支援者養成研修

・対象者→事業所等で医療的ケア児を支援している者、今後支援したいと考えている者

（2）医療的ケア児等コーディネータースキルアップ研修 【愛媛県医療的ケア児支援センター】

・対象者→コーディネーター養成研修の修了者



【所感】

「愛媛県医療的ケア児支援センターについて」現地視察を実施させていただきました。医療的ケア児やその家族の様々な相談等について、医療的ケア児支援センターが総合的に対応することがわかりました。そして、相談支援に係る情報の集約点となり、医療、保健、福祉、教育、労働等の多機関にまたがる支援の調整を行う施設になることが目的であることがわかりました。愛知県にはこのような施設はないで、早急に設置する必要性を感じました。

今回の研修、本当にありがとうございました。

神谷 悟